

作成日：2010年11月16日

更新日：2024年1月11日

Ver. 4.0

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称： スプレーマン

供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名： 株式会社アグリマート

住所： 〒104-0031 東京都中央区京橋 3-12-2 京橋第2有楽ビル

TEL. 03-5159-1711, FAX. 03-5159-1712

e-mail: agm-info@agrimart.co.jp

推奨用途及び使用上の制限： 不快害虫用殺虫剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

高圧ガス

液化ガス

健康有害性

生殖毒性

区分2

特定標的臓器毒性(単回暴露)

区分2(中枢神経)

区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分2(中枢神経、呼吸器、消化管)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)

区分1

水生環境有害性 長期(慢性)

区分1

上記で記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」か「分類できない」。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

高圧ガス：熱すると爆発のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

中枢神経系の障害のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器、消化管の障害のおそれ

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 使用前に取扱説明書を入手しよく読んでから使用すること。
- 定められた使用方法を厳守すること。使用時は屋内で必ず容器を直立させ、2
- ミスト、蒸気の吸入をしないことまたは避けること。

- 取扱後には手をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 食品・食器、飼料、魚のいる水槽などにかからないようにすること。
- 人体に向かって噴霧しないこと。作業者及び作業場所に入る者は必ず保護具(推奨マスクとゴーグル、長袖の作業衣、手袋等)を着用し、ばく露を避けること。
- 作業中は、関係者以外は入室しないこと。また、作業終了後は室内が十分換気された状態で入室すること。
- 環境への排出を避けること。

【応急措置】

- 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合は本品がピレスロイド様殺虫剤及びアセトンであることを医師に告げ診断／手当を受けること。
- 気分が悪いときは、医師に連絡すること。

【保管】

- 施錠して保管すること。
- 換気の良い場所で保管すること。
- 容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

- 使用済み容器は速やかに返却すること。勝手に廃棄しないこと。

他の危険有害性：特になし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

成分及び含有量：

成分	含有量(w/v)	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
2 - (4 - エトキシフェニル) - 2 - メチルプロピル = 3 - フェノキシベンジルエーテル (一般名 エトフェンプロックス)	1.0%	80844-07-1	4- (14) -178	(3) -3981
アセトン	5.0%	67-64-1	—	(2) -542
液化炭酸ガス	94.0%	124-38-9	—	(1)-169

4. 応急措置

- 吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所に移動する。
呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。
呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類を緩め、呼吸気道を確保したうえで人工呼吸(又は、酸素吸入)を行う。
身体を毛布などで覆い、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。
付着した部分を水、又は微温湯で洗い流しながら石けんを使ってよく洗い落す。
外観に変化が見られたり痛み続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
凍傷の場合には衣類を脱がせないで早く接触部を温湯で十分温め、直ちに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合：直ちに清浄な水で最低15分間洗浄した後、眼科医の手当てを受ける。
洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水が行き渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する

5. 火災時の措置

消火剤：周囲の火災に対して適切な消火剤を選定して使用する。

特定の危険有害性：容器は火災によって、熱せられると安全弁が破裂し、不燃性のガスが流出し、エトフェンプロックス及びアセトンが燃焼して高温によって有害ガスを発生する恐れがある。

特定の消化方法：移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

容器、周囲の設備などに散水して冷却する。

火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。消火作業は、可能な限り風上から行う。

消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。屋内の場合、スプレーマンの白煙がなくなるまで十分に換気を行う。作業の際には、飛沫など皮膚に付着したり、ミスト、ガスを吸入しないように、適切な保護具を着用する。風下の人を避難させ、風上から作業する。スプレーマンは空気より重いので低い場所に滞留し高濃度になりやすいので、特に注意する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に流してはならない。

除去方法

漏出物を取り除く時は、ウエス等で漏出箇所を覆い吸着させる。回収に使用したウエス等は火気のない屋外にしばらく放置し、アセトンを気化除去後、洗剤と水でよく洗うこと。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。漏出箇所より低い場所(地下室、ピット等)への立ち入りは、酸素濃度を測定し、安全確認後とする。

7. 取扱い及び保管上の注意

技術的対策：取扱いは、保護具（防じんマスク、ゴーグル、保護手袋、長袖の作業衣）を着用し、換気に注意する。使用は、必ず容器を立てて使用すること。横にしたりすると安定した組成のガスが得られない。

安全取扱上の注意事項

：局所排気内、または全体換気のある設備のある場所で取り扱う。取り扱い場所の周辺での火気、高温物の使用は禁止する。29℃以下に保って使用する。転倒、転落、その他、乱暴な取り扱いをしない

適切な保管条件：

容器は29℃以下の換気の良い場所に保管する。

直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。

転倒、転落、衝撃を防止する処置を講ずる。

容器の保管、輸送及び移動には、容器バルブ保護用キャップを取り付けておく。

高温になる車内に長時間放置しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

アセトン 500 ppm
エトフェンプロックス 未設定
二酸化炭素 未設定

許容濃度

エトフェンプロックス
日本産業衛生学会（2005）：3 mg/m³
ACGIH（2005）：未設定
アセトン

日本産業衛生学会 (2005): 200ppm 470mg/m³

ACGIH (2005): TLV-TWA 500ppm

STEL 750ppm

二酸化炭素

日本産業衛生学会 (2006): TLV-TWA 5,000ppm

STEL 9,000mg/m³

設備対策: 局所排気装置を設置する。取扱い作業場の近くに洗眼、うがい、手洗い、安全シャワー設備を設置する。

個人用保護具: 状況に応じた適切な保護具を着用する。保護マスク、防毒マスク(有毒ガス用)、保護眼鏡、ゴーグル、保護面、保護衣(不浸透性、静電気防止服)、エプロン、ゴム手袋

作業時に着用していた衣類等は、他のものと分けて洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態: 液化ガス(高压ガス容器入りの液体)
 色: 無色透明(使用時の噴射ガスは白色煙霧状)
 臭い: アセトン臭
 融点/凝固点: データ無し。
 沸点又は初留点及び沸点範囲: データ無し。
 可燃性: 該当しない。
 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: データ無し。
 引火点: データ無し。
 自然発火点: 常温で空気と接触しても自然発火しない。
 分解温度: データ無し。
 pH: データ無し。
 動粘性率: データ無し。
 溶解度: データ無し。
 n-オクタノール/水分配係数: データ無し。
 蒸気圧: データ無し。
 密度及び/又は相対密度: データ無し。
 相対ガス密度: データ無し。
 粒子特性: データ無し。
 粘度: データ無し。

10. 安定性及び反応性

安定性: 本剤を急速に放出した場合、ドライアイスが発生または、配管中の錆ダクト、水分等により静電気が発生し、局所的に可燃性混合気体を形成した場合、着火することがある。容器温度が29℃以上の状態では、液化二酸化炭素とアセトン、エトフェンプロックスが相分離するので、エトフェンプロックス・アセトン溶液が噴射される。

反応性: 特記すべき反応性はない。

避けるべき条件: 容器温度を29℃以上にしてはならない。

危険有害な分解生成物: 燃焼したとき、有害ガス(一酸化炭素)

11. 有害性情報

急性経口毒性: データ無し。
 急性経皮毒性: データ無し。
 急性吸入毒性: データ無し。
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性: データ無し。
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: データ無し。

皮膚感作性：データ無し。
 誤えん有害性： データ無し。

<エトフェンプロックス>

急性毒性 : 経口:ラット LD₅₀>42,880mg/kg
 経皮:ラット LD₅₀>2,140mg/kg 及び同用量で「死亡例なし」
 吸入(粉じん):ラット LC₅₀>5.9g/m³=5.9mg/L(4H)
 皮膚腐食性・刺激性: 一次刺激性試験:ウサギ 刺激性なし

眼に対する重篤な損傷・刺激性
 : 一次刺激性試験:ウサギ 刺激性なし

呼吸器感作性又は皮膚感作性
 : 呼吸器感作性:データなし
 皮膚感作性:モルモット 陰性 (Maximization test)

生殖細胞変異原性 : 陰性
 発がん性 : ラット及びマウスを用いた2年経口投与による発がん性試験では、腫瘍の発生は全く認められていない。

生殖毒性 :ラットを用いた3世代投与試験において、親動物での一般毒性発現用量で性機能又は生殖能に何ら影響が認められていない。また、ラットを用いた器官形成期投与試験においても、母動物では一般毒性の発現が見られるものの投与した母動物(F0)及び F1 母動物の生殖能に影響が見られず、ウサギを用いた器官形成期投与を含めて催奇形性はないと判断されている。

特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)
 :ラットの経口投与 42,880mg/kg 以上で立毛、自発運動の低下、軟便などの症状、また、ラットの吸入暴露では最高濃度 5.9g/m³で姿勢や呼吸運動の異常、し眼状態などが認められている。しかし、いずれの経路とも死亡例はなく観察期間終了時の病理組織学的検査で異常はなかった。

特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)
 :ラット及びマウスを用いた 13 週間経口投与試験において、ガイドランス値範囲の上限を上回る用量で重大な毒性影響が認められていない。

<アセトン>

急性毒性 : 経口:ラット LD₅₀>5,000mg/kg
 経皮:ウサギ LD₅₀>5,000mg/kg 及び同用量で「死亡例なし」
 吸入(粉じん):ラット LC₅₀ 75.8g/L

皮膚腐食性・刺激性 : ウサギ 刺激性なし

眼に対する重篤な損傷・刺激性
 :蒸気は人の眼を刺激する。しかし暴露が止まると刺激性は続かない。ウサギではsevereという結果が報告されている。角膜上皮は破壊されるが基質までは至らず、角膜上皮の破壊は4～6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性
 :呼吸器感作性:データなし
 皮膚感作性:Mouse ear swelling test 及び Guinea pig maximization test で陰性

生殖細胞変異原性 : 陰性
 発がん性: ACGIH グループ A4 (ヒト発がん性に分類できない物質)

生殖毒性 : 疫学調査で流産への影響なしという報告がある。ラットの高濃度暴露(11,000ppm(20mg/L))でわずかな発生毒性(胎児体重減)が、マウスの高濃度暴露(6,600ppm(15.6mg/L))で胎児体重減、後期杯吸収率増が報告されている。EHC では、ヒトと動物で更に検討が必要であるとの記載あり。

特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)
 : ヒトへの 12,000ppm の暴露で喉の刺激、1,190、2,400mg/m³/6h の暴露で鼻、

喉、気管、1,000ppm/4hの暴露で喉の刺激。200mL を飲み込んだ男性に昏睡 (12 時間後意識回復)、12,000ppm 暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神

特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)

: 長期又は反復暴露による血液の障害のおそれ

<二酸化炭素>

急性毒性

経気道	:ラット	24時間	TCL0	6pph
	ウサギ	4時間	TCL0	13pph
	マウス	2時間	TCL0	55pph
	ヒト	5分	TCL0	9pph
	ヒト	1分	TCL0	10pph

皮膚腐食性/刺激性 : データなし

生殖細胞変異原性 : データなし

発がん性 : データなし

空気中の二酸化炭素濃度により、人体に対し次のような影響を及ぼす。

二酸化炭素濃度	影響
0.04%	正常空気
0.5(TLV)	長期安全限界
1.0	作業性及び基礎生理機能に影響を及ぼさずに長時間にわたって耐えられる
2.0	呼吸が深くなる。一回の呼吸量が 30%増加
3.0	作業性低下、生理機能の変化が体重、血圧、心拍数の変化として現れる。
4.0	呼吸がさらに深くなる。呼吸数が増加して軽度の喘ぎ状態になる。
5.0	呼吸が極度に困難になる。重度の喘ぎ。多くの人が殆ど耐えられない状態になる。吐き気が出る場合がある。30 分の暴露で中毒症状。
7~9	許容限界。激しい喘ぎ、15 分で意識不明
10~11	調整機能不能。10 分で意識不明
15~20	さらに重い症状を示す。
25~30	呼吸低下、血圧降下、昏睡、反射能力喪失、麻痺、数時間後に死に至る。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性) : データ無し。

水生環境有害性(長期間) : データ無し。

生態毒性 : データ無し。

残留性・分解性 : データ無し。

生体蓄積性 : データ無し。

土壌中への移動性 : データ無し。

オゾン層への有害性 : データ無し。

<エトフェンプロックス>

環境影響 : 魚介類及び有用生物(蚕、ミツバチ)に対する毒性が強い

生体毒性

魚毒性 : コイ LC₅₀(96H) 0.141mg/L

甲殻類 : オオミジンコ EC₅₀(48H) 3.66 μg/L

藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*)

ErC₅₀(0-72H) >150mg/L

残留性/分解性 : 水田状態圃場推定半減期

沖積土 約 62 日, 火山灰土 約 79 日

畑状態圃場推定半減期

洪積土 約 9 日, 火山灰土 約 39 日

その他 : 公共水域等における水質評価指針値 <0.08mg/L

<アセトン>

生体毒性

魚毒性 : 淡水魚 LC₅₀(96H) 580~8,120ppm
 その他 : カダヤシ LC₅₀(48H) 4,000ppm

<二酸化炭素>

残留性/分解性 : 二酸化炭素は地球温暖化の主因物質の一つと言われており、様々な削減手段が国の内外で検討されている。

生体毒性

魚毒性 : 150mg/L 48day(s) (Mortality) Brown trout (*Salmo trutta*)
 96 時間 LC

1 3. 廃棄上の注意

残留物廃棄物 : 残ガスはそのまま返却する。万一廃棄する場合には、換気に注意しながら少量ずつウエス等に放出吸収させ、吸収したウエス等は都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器・包装 : 空容器は速やかに返却する。勝手に廃棄しないやむを得ず廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

1 3. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託し適切に処理する。残薬及び洗浄液は、河川、下水等水系に流さないようにする。

1 4. 輸送上の注意

国連番号 : 1058
 品名 (国連輸送名) : LIQUEFIED GASES, Non-Flammable,
 (Charged with Carbon Dioxide)
 国連分類 : 2.2

輸送の特定の安全対策及び条件

: 車両には見えやすい所に「高圧ガス」の標識を掲げる。充填容器は、温度40℃以下に保つ 充填容器には、転倒、転落などによる衝撃およびバルブの損傷を防止する処置を講じ、かつ粗暴な取り扱いはしない。
 容器は運転席に載せない。バルブを折損すると急激に炭酸ガスが噴出し危険であるので、運搬時は必ず容器のバルブ保護キャップを取り付ける。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法 : 第 57 条 施行令第 18 条名称等を表示すべき危険物及び有害物
 (アセトン 5%、エトフェンプロックス 1%)
 第 57 条の2 施行令第 18 条の 2 別表第 9 名称等を通知すべき危険物
 及び有害物
 (アセトン 5%、エトフェンプロックス 1%)

有機則第 1 条 施行令別表第 6 の 2 (第 2 種有機溶剤等)

施行令別表 1 危険物 (引火性の物)

酸素欠乏症等予防規則

化学物質排出把握管理促進法 (化管法)

: 第一種指定化学物質/64 (エトフェンプロックス 1%)

高圧ガス保安法 : 一般高圧ガス保安規則、容器保安規則等

航空法 : 施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 高圧ガス

船舶安全法 : 危規則第 2.3 条危険物告示別表第 1 高圧ガス

港則法 : 施行規則第 12 条危険物告示 高圧ガス

道路法 : 施行令第 19 条の 13 (車両の通行の制限)

16. その他の情報

引用文献

JIS Z 7252 : 2019、GHS に基づく化学物質等の分類方法

JIS Z 7253 : 2019、GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。